

SHIN CLUB80

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450 URL:http://www.esna.co.jp



今月のトーク/monthly talk

まるで木の板に塗装したかのような、小池精米店のコンクリートの外壁

触ってみたい建築

ここは原宿、たくさんの若い人々が行き来するキャットストリートから1本路地裏に入ったところです。新しく建った精米店は打ち放しのコンクリート造にも関わらず、木摺型枠の木目の壁にきれいな色の塗装が施され、まるで木造の建物のように。「店の前を通る人が足を止めて、建物の壁に手を当てて、その素材を確かめていくんですよ」と小池精米店の奥様は話してくれました。

緑、青、ピンク、黄色と木の枠一枚一枚ごとに色が異なり、建物全体がとてもユニークな外観になっています。塗装の仕事は、(有)ヨービ装の前田庸さんら職人さんによるものです。

「塗料は、大日精化のダイステンダー（浸透撥水性コンクリート用塗料）です。設計の上松先生は、当初ドイツの博物館に使われているアウロを希望されていたのですが、日本の代理店ではコンクリート外壁用のクリアを輸入していません。それで通常我々が吹きつけて用いる国内メーカーのカラークリアを使うことにしました。サンプルを30色作り、実際に塗りながら調整し、その中から12色を選び出しました。メーカーの協力の賜物です。」と前田さんは振り返ります。

型枠の幅に合わせて巾11cmの刷毛を用意し、4、5人で作業を進めていきましたが、水彩画のように、1度塗ったところに2度目に塗ると色は重なった分濃くなりますから、なるべくムラにならないよう注意を払いながら、全体で500㎡ほどの外壁を塗り上

げました。コンクリート地のしみやセパレータの穴も壁の表情に豊かさを加えています。

型枠大工さんの仕事も、手間がかかるものです。細い木の板を継ぐ作業の大変さは、通常のサイズの型枠を組む作業量を思えば、想像するに難くありません。

手仕事の味わいを与えるのは、何も木の細工や土壁だけではありません。そして意外な取り合わせとの思わぬ出会いは人の心に刺激を与え、豊かな気持ちにさせてくれます。

それは、自然のものを真似た人工のもの、例えば、打ち放しコンクリート模様や木目模様の塩ビの壁紙、大理石のようなプラスチックといったフェイクではなく、本物の素材を扱った、しっかりと使用に耐えられる表現でなくてはなりません。

作業を省力化したり、安価なものを使ったのでは、人は認めてくれないのです。人が価値を認めるのは、手間と時間がかかった贅沢、難しい問題をクリアしたという結果がわかる仕事です。

いいものと粗悪なものとの区別は、本物を知っていなければ判断ができません。人間自身の性能がどんどん落ちてしまっただけは何のための進歩かと思えます。

経済性も抜きにしては建物を建てることはできませんが、街並に存在感を示すことができる仕事をしていきたいものです。

小池精米店 新築工事



外壁塗装が美しい、隠田の店舗併用住宅

お米屋さんの店舗併用住宅である。計画は3年がかりであった。まず高さ3m20cmの精米機をどう収めるかという条件があった。道路斜線による高さ制限もあり、また予算の関係で地下を取りやめ、1階の店舗奥精米所のレベルを下げることで解決した。

1階の北側半分と2階は貸店舗となっている。RC壁構造で室内は柱のない広々とした空間とし、開口部も大きく取って、角地の利点を生かすこととした。3、4階は、息子さん世帯とご主人の世帯の2所帯住宅である。居住部分にはルーバー状の手摺を設け、テラス部分の足元を広くして開口部を奥に収め、プライバシーにも配慮する形をとった。容積率いっぱいだが、屋上に芝生を敷き、1階の車寄せ部分にグリーンを植えるなどして緑化も心がけた。

建物の躯体は、木摺型枠を用いたコンクリート打ち放しとしたが、地の灰色では建物が暗くなるので色彩を施すことにした。ヨーロッパでは多少見られるが、日本ではコンクリートの外壁全体に色をつけるのは初めてではないだろうか。

基調は「隠田の水田」をイメージした緑である。壁は白緑(びやくろく)、一斤染(いっこんぞめ)、浅緑(あさみどり)など。屋根は胡桃色(くるみいろ)、隠田の水車の水の色は薄浅葱(うすあさぎ)や白群(びやくぐん)、水車は蒸栗色(むしくりいろ)など、日本古来の淡い色にこだわっている。

建物の四方の足元には、目立たぬよう春夏秋冬を表した稲の小さなレリーフがある。フィレンツェのオー・サン・ミケーレ(13世紀のゴシック建築の教会。穀物店を礼拝堂として再活用した建築)で目にした麦穂のレリーフに着想を得ている。

最先端のファッションの街原宿で、和の趣を生かした魅力ある建物として、街の人々に愛されることを願うものである。(上松佑二)



①北東側外観夜景
②東側外観
③北東側遠景
④4階バルコニー
⑤建物中央のニッチ部分に収まる水車のイメージ



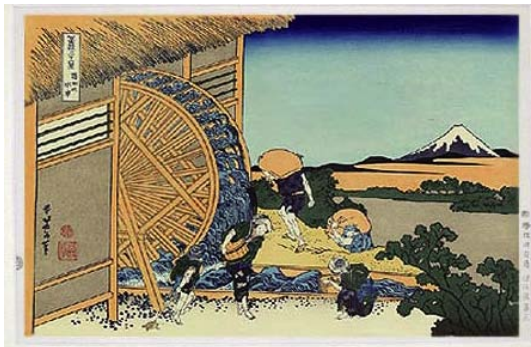
⑥1階米屋店舗部分。入口よりレベルを下げ、背の高い精米機を収めている
⑦3階ダイニングキッチン
⑧建物正面グリーンの足元に秋の稲穂のレリーフ

所在地: 渋谷区
構造: RC造 地上4階
用途: 店舗+住宅
設計: 上松佑二
撮影: 間瀬憲隆 (表紙⑤⑧を除く)

発注者様からひとこと

昭和25年からこの地で商売をしていたが、木造の建物の老朽化に伴い、今回新しくビルを建て替えることになった。将来もここで米屋を続ける身としては、まず地震に強い建物とすることが第一だった。最近、周辺のビルの建てかえが数多く見られるが、雨漏りの話もよく聞く。その点も注意してほしいと設計者側に伝えた。

デザインについては設計者にすっかり任せしたが、商売柄、街並みの「和」のイメージを大切にしたいと以前から考えていた。この地域は隠田と言って、葛飾北斎の『富嶽三十六景～隠田の水車～』にも描かれており、うちの米の銘柄も「隠田の水車」という名前である。原宿の地名度も上がり建設ラッシュだが、店舗の収益を上げるためだけではなく、この地で暮らし、住んでいる人間の心を受け継ぐ立場として、この建物が神宮の門前町にふさわしい存在になってくれればいいと思っている。



葛飾北斎「富嶽三十六景」隠田の水車



上松佑二 profile

1942年 長野市生まれ
 1966年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
 1967-69年 スイス・ゲーテアヌム精神科学自由大学留学
 1972年 早稲田大学理工学部池原義郎研究室助手
 1977-79年 ミュンヘン大学美術史研究所留学
 1982-87年 東海大学工学部建築学科助教授
 1987年 // 建築学科教授 現在に至る。

主な作品

「座間の家」「木立の家」「山中湖の別荘」「善光寺外苑一西之門」
 「オリンピック表彰式会場—長野セントラル・スクウェア」など。

受賞

1987年 「建築空間論に関する研究」で日本建築学会賞(論文)受賞
 1997年 「善光寺外苑一西之門」で長野建築文化賞知事賞受賞 など。

主な論文・著書

『世界観としての建築』、『建築空間論』、『ルドルフ・シュタイナー』など多数。

今月は「小池精米店」の設計者上松佑二氏にご登場いただきます。東海大学の湘南キャンパスにお邪魔してお話を伺いました。

—上松さんは、ルドルフ・シュタイナー(※)の研究者でもいらっしゃいます。どんなきっかけで興味をもたれたのでしょうか。

上松：そうですね。大学の建築学科に進みましたが、1963年、今井兼次先生の講義を聞き、興味を持ちました。日本で初めてシュタイナーを紹介した建築家ですね。こちらの写真が「ゲーテアヌム」ですが、シュタイナーが1925年に設立したアントロポゾフィーの本部がある建物です。

—最初の本造のものが1度焼失し、これは2番目の「ゲーテアヌム」だそうですね。コンクリートでこんなに有機的な建物を建てるなんてすごいですね。

※オーストリア生まれ。「ヴァルドルフ教育」で有名な哲学者、建築家。その活動は多岐にわたる。(1861～1925)

上松：私は今井先生の教えを受けた池原義郎先生の研究室に入り、1967年から69年までこのゲーテアヌムで過ごし、その後大学に戻って修論を書き、1980年に博士論文を書きました。

現在は、建築設計や建築図像学に関する一連の研究を行うほか、研究成果に基づいて、住宅、病院、学校、老人ホームなどの設計を行っています。大学では建築美学と設計を教えています。

—ご自身をどのような建築家だと思われますか。

上松：依頼があれば、その与件にふさわしい建物を作る、というごく基本的なことを行っています。

—教育者としてのお立場で日頃、感じられていることがあれば教えてください。

上松：そうですね。私たちの若い頃は、図面はみな手書きでしたが、今やCADですからね。学生がつくってくるものに原寸感覚が全くないということがありますね。デッサンを止め、CADを用いて、建築本来のあり方が損なわれるように、価値観がずれてきています。日本全体で建築がファッション化しているようなものですから。

—ファッション化といいますと・・・？

上松：ワンパターンですね。機能だけというか、感動できる建築が少ないですね。難しいことですけど。

—今の時代の傾向はともよいとは思えません。施工も短期で簡単な方向に向かっています。手仕事の部分もどこまで許されるか、と思います。今回の工事も1年近くかかってしまいましたが、それでも早いと思っています。例えば、コンクリートに行った塗装ですが、ヨーロッパではコンクリートを打設してから3ヶ月間乾燥させてから塗り始めます。今回は1ヶ月でした。ヨーロッパでは「建物はいったん建てたらずっと残る」という、本物を作るという気概がありますが、日本では「すぐ壊す」からという姿勢が見えますね。

—そういう中でも、昔からの建物はきちんと残そうという意識は生かしていきたいと思っています。例えば長野市の「三河屋」という昔からある菜種油屋ですが、敷地内に道路が建設されるというので、古くからの建物の部分を移築して隣に、新しい住宅をコンクリートで建てることを行いました。

また、「善光寺外苑一西之門」という複合プロジェクトでは、古い建物の修復や保存を行うだけではなく、清酒工場やレストランなど新しい建物を広場を中心に展開させて、施設の多角的な再生利用を実現しました。

—ご出身の長野でのお仕事が他にもありますね。

上松：冬期オリンピックの表彰式会場となったセントラル・スクウェアの設計もありました。今は駐車場となっていますが、土日はイベント会場にもなっています。

—現在はどのようなお仕事が進行中ですか。

上松：ストックホルム図書館のコンペに応募しています。29,000㎡という大規模のプロジェクトです。

—本日はどうもありがとうございました。



①第2ゲーテアヌム。劇場としても利用される。スイスのドルナッハ。他のいくつかの施設も周辺に建設された。



②三河屋。新しく建てられた店舗と住宅部分。③善光寺外苑一西之門。正面奥が新しく建てられたレストラン。④長野オリンピック・セントラルスクウェア。





今日は、事前に受けた区役所の配筋検査の指摘事項を午前中に手直し、午後、地下基礎の耐圧盤のコンクリート打設を行った。

当地周辺の道路環境も整備されてきて施工するにおいて特に難しい工事ではないが、ただ、地下水位が高いうえに、この地域ではめずらしいと思われる地下工事があり、現在その工事を進めているところである。

施工は、近くで以前、設計者が設計された建物に入居されていて、そのデザインが気に入って、今回の工事が実現したということである。

敷地は、隣家にびったりと接する小規模の工事だが、正面の外壁全面にステンレス板を張るところが斬新であり、今回の工事の見どころだろう。

現在、墨田区の東駒形でRC造の地下一階、地上四階の専用住宅の新築現場を担当している。近くには寺や古い家があちこちに見られる、下町風情がまだ残る地域である。

十月十六日(月)

十月十七日(火)

今日もコンクリート打設を行った。場所は、昨日打設した耐圧盤上の地中梁立上りである。朝早く型枠を建て込むための墨出しを行った後、型枠材の搬入である。午前中に打合せ通り型枠組が無事完了し午後打設。昨日はコンクリートポンプ車を使用したのが、コストを考慮しクレーン車使用のバケットで行った。



松前 正
50代の再就職
パソコンに挑戦中

十月十八日(水)
今日は、現場はコンクリートの養生のため、休み。
終日事務所であまった書類の整理をおこなう。

十月十九日(木)
午後より地中梁の脱型を行う。コンクリートの打ち上がり状態を確認する。
明日より開始する地下一階の立上り工事。以前より計画していた工事の進め方を現場にて再確認する。

十月二十日(金)

地下一階の壁仕上げは打ち放しなので、割付による型枠用金物が必要となる。今日は、その取付位置の墨出し、その後、鍛冶工が金物を取付する。金物を取り付ける山留用親杭は多少の不揃いが生じているので、現場にて的確な指示をする必要がある。

十月二十一日(土)
昨日と同じ作業。

昨年六月、辰に入社。五十代での再就職である。

故郷新潟で、若い頃から建築関係の仕事をやってきたが、平成四年に上京し、都内で現場管理の仕事をはじめた。

これまで、それほど必要とされなかったパソコンも、この会社では必須である。目の疲れは否めないが、新しい挑戦をしつつ、今までの経験を生かして、少しでも長くがんばっていきたいと思っている。

1950年生まれ 新潟県出身
一級建築士
趣味:映画鑑賞

1人暮らしの休日は、好きな洋画を見ておいしい料理とお酒を楽しんでいる。

担当した主な物件 (設計者)
ユーズアーク明大前 (司設計)
駒形の家 H邸 (山中デザイン研究所)

TOPICS/INFORMATION

「(仮称) JM335新築工事 地鎮祭」 10月19日

神宮前のキラー通りより少し入った穴場の商業施設です。

構造:RC造 地下1階、地上2階
用途:店舗
設計:アルボス一級建築士事務所
完成予定:2007年5月



「(仮称) PSビル新築工事 上棟式」 10月30日

オーナーこだわりのレコード店を中心とした商業ビルです。

構造:RC造+一部鉄骨造
地下1階、地上6階
用途:店舗+住宅
設計:アトリエエスタス建築設計事務所
完成予定:2007年1月



「(仮称) 南大泉1丁目計画 新築工事 上棟式」 11月8日

ワンルーム賃貸マンション2戸+オーナー住宅+店舗の建物です。テナントには診療所と調剤薬局が入りました。アクセスは西武池袋線大泉学園駅と西武新宿線武蔵関駅の2駅が可能です。

構造:RC造 地上2階
用途:共同住宅+店舗
設計:辰一級建築士事務所 完成予定:2006年12月



編集後記

今月、ご紹介した「小池精米店」。撮影中にも、道行く人々が、興味深げに壁に触っていきます。「これ、木?」「何だろう?」「やっぱり木じゃない。」木と思わせて実はコンクリートという、アート感覚が人々の好奇心をくすぐります。隠田商店街の名所になりそうな気配です。